

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	エイド川崎		
○保護者評価実施期間	2025年1月1日		2025年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2025年1月1日		2025年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だとと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	大きな動きを伴う粗大運動、手や指先などの細かい動きを伴う微細運動をバランスよく活動プログラムに取り入れている。	【粗大運動】地域の小学校のグラウンドでは全身を十分動かし、施設内のスペースでジャンプやバランスを取るなどの動作、日常生活の土台となる体の動きを取り入れている。【微細運動】ひも・ビーズ通し、ボタン留め、箸、積み木など、子どもたちの集中できる意識を作れるように取り組んでいる。	より分かりやすく、自力で可能な限り取り組め、達成感が持てるように視覚支援を充実させていく。また、繰り返し行うことで定着が期待できるよう年齢に応じたプログラムを作るよう支援を行っていく。
2	生活スキルの向上につなげるために様々な活動に取り組んでいる。	子どもたちの生活スキルの向上のため、ひとりひとりの課題に個別に対応し、役割を持ってもらえるようなど、職員間で慎重に情報共有等を行い、子どもたちの自己肯定感が高められるように活動プログラムに反映している。	地域行事への参加や家庭・学校以外での居場所作りや日々の生活において基本となる動作や習慣スキル向上の支援ができるように、これまで以上お子さまそれぞれの特性を理解し、積極的に参加していただけるような活動プログラムを用意できるように取り組んでいきたいと思います。
3	幅広い年代の子どもたちがいることで、お互いの行動を見ながら人を思いやる気持ちや、お手本として見習う刺激を受け合える環境である。	自分の思いを受け入れてもらえる心地よさが感じられるようにお互いの距離感や関わり方をその都度伝えるように心がけている。	子どもたちが気持ちを理解し合い、安心して表現できる環境を更に整え、対人関係の練習や遊び等を通して社会性の向上を図り、生活スキルの向上にも関連付けて支援していけるよう最大限の努力に全職員で取り組みます。

	事業所の弱み(※)だとと思われること ※事業所の課題や改善が必要だとと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	一人ひとり丁寧に支援することが不足しているときが稀にある。	職員のスキル向上に努め、一人ひとり寄り添うことができ丁寧な支援が行えているが、現状に満足することなく全職員のスキル向上に努めていく必要があると考えます。	定期的な研修や勉強会、実務経験を通じて専門性の向上を図り、資格取得に努めます。保護者様や職員間での意見交換を行い専門性だけでなく、社会性の向上にも努めます。
2	子どもたちや職員が施設内で円滑に活動できるように動線や配置等を日々整える必要がある。	昨年度からの課題としていて、動線や配置等を整えてはいるが、イベント等によって臨機応変に対応できるようにしていく必要がある。	円滑に利用していただけるように、視覚カード等を用いて生活空間、動線を整え職員が効率よく支援に携われるように日々努めます。
3	互いの特性で苦しくなる利用者さんがいる。	勉強会や研修、支援実績から利用者様の特性をより理解できるようになっている。しかし既存の利用者様だけでなく、新規で来所頂く利用者さまにも対して安心・安全に通っていただけるよう最大限努力します。	利用者さんの特性の理解を深めて、互いを必要以上に刺激し合わない環境を作り、状況を見て先回り支援を行う。子どもたちが安心して過ごせる職員配置も必要だと考える。